



特集

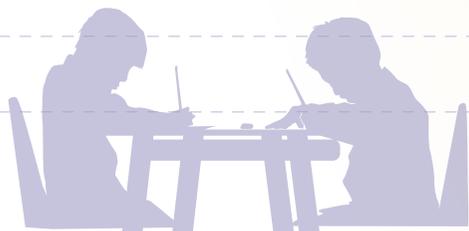
# 「小6 統一合判」<sup>2</sup>

中学入試レポート vol.

## わが子にあった 中高一貫校を 見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

6年生になって、いよいよ本格的な受験勉強に取り組みはじめた受験生の皆さんは、夏休みを前に、さまざまな課題を感じていることだろう。同時に保護者の皆さんは、わが子の受験校を考えていくうえでの大切な時期を迎えた。この6年生の大事な時期に、保護者の皆さんは、お子さんの生活リズムを良い形でサポートしてあげるのと同時に、お子さんにとってベストの受験校選択をしていくためにも、これから先、ぜひ多くの私学を見学に行ってほしい。とくに今年は、3年後の「2020年大学入試改革」とその先を見据えて、“日本の学校教育を変える”教育改革が、いくつもの私学で進行している。変化の激しい21世紀の社会に生きるわが子のために、そうした変化にも目を向けていただきたい。



首都圏模試センター

## 21世紀の教育改革の方向性をリードする「私立中高一貫校の進化」に注目しよう！

4月16日（日）に実施された今年度の小6「統一合判」第1回の同レポートでは、「2017入試結果から探る、2018年首都圏中学入試展望」と題して、今春の中学入試のトピックと、それらの動向から読み取れる保護者の意識の変化、そして「2020年大学入試改革」に象徴される、今後の日本の教育の変化について言及した。この模試を受験して同レポートをご覧いただいた保護者のなかには、こうした動きをすでに意識されている方も多いことだろう。

2年前の2015年1月～2月初旬の首都圏中学入試の時期には、まだ「2020年大学入試改革」について言及するマスコミ媒体はほとんどなかった。しかし、2月に大学入試時期の終盤を迎える頃から、急速にその話題がクローズアップされることになった。

そして翌2016年から今春2017年にかけての2年間、教育と受験の世界では、この「2020年大学入試改革」をめぐる議論がひとつの焦点となっていく。世界トップ200大学と肩を並べるための、「SGU（スーパーグローバル大学）」（トップ型13校・グローバル化けん引型24校）の指定や補助金制度、それにつながる「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」指定、「日本語IB（国際バカロレア）プログラム」導入などの動きに象徴される「グローバル教育」推進の動き、さらに文部科学省が推進を図る「アクティブラーニング（能動的学習）」に関する議論は、この2年間の教育をめぐる話題の中心であった。

注目される新たな「大学入試制度」導入の具体的な時期や手法については、4月段階で大筋の方向性が示されたが、まだ本稿を作成している6月初旬では明示はされていない（この7月「統一合判」模試直前の6月末までには公表される見通し）。

しかし、何より現在の小学生にとって大事なことは、①これまでの共通テストであった「大学入試センター試験」が、「大学入学共通テスト（仮称）」という新たなテストに変わり、そこでは「思考力・判断力・表現力」が問われるようになることと、

②各大学が行う個別入試では大学の個性化を図り、「主体性・多様性・協働性」や「創造性・独創性、芸術性」までを問う出題がされること、③英語では民間の英語検定のスコアが判定材料として導入される、といった極めて大きな変化だ。

そして、そのあり方が明示される以前に、東大や京大で「推薦入試」「特色入試」が導入されたことや、英語の民間検定のスコアが判定材料にされ始めたことなど、いくつかの国公立大学や私立大学ではその方向性を先取りして、入試問題そのものも変化させている。「すでに大学入試は変わりつつある」ということだ。

とりわけ「4技能（読む・書く・話す・聞く）」の力を試すために、民間の検定資格試験を導入する英語については、その方向性がほぼ確定し、すでに2016年～2017年の大学入試でも、そうした英語検定を自らの入試に導入する大学がいくつも表れている。

そして、現在の小6のお子さんが大学入試を迎える2023年には、新たな大学入試制度も4年目を迎え、2020年の導入時の構想よりも、かなり進んだものになることは間違いない。

また、今回の大学入試改革の狙いでもある「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を実現するための力を評価する」手法も、現在よりもかなり具体化～実現されることだろう。

そして何より、各大学の「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」につながる「アドミッションポリシー」を反映した個別入試問題では、やはり文科省も改革の参考にしている教育目標



今年（2018年）は京華中高校で6月4日（日）に開催された「東京私立男子中学校フェスタ」には、多くの男子小学生と保護者が訪れ、男子校生の発表やスポーツの試合を見学した！



# 特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

分類学（通称ブルーム・タクソノミー）に提示されている「①記憶、②理解、③応用、④分析、⑤評価、⑥創造」の4～6段階にあたる「論理的思考」の力を問う出題や、いわゆる「批判的・創造的思考」までを問うユニークな出題がされることが予想できる。

言い換えれば、そうした個別入試の出題では、各大学のアドミッションポリシーや、将来の社会で求められる力を反映した「正解がひとつに定まらない問題」「オープンエンドの問い」ともいえる問題が増えてくるだろう。

来春2018年の中学入試に挑もうとしている現在の小6のお子さんと保護者は、その変化の真っ只中で、この先の大学入試や社会の変化を具体的に見通しつつ、わが子の中高6年間の教育環境（受験～進学先）を探していく必要がある。

そういう保護者の教育と学校選びに関する情報収集のアンテナと見識が「わが子に合った中高一貫校を見つけるための」大きなポイントになるといってもよい。

そして、何より現在の小学生とその保護者にとっての本質的な問題は、目先の大学入試制度や入試形態の変更や、その時期にあるわけではない。

この新たな大学入試制度が導入される目的は、この先のグローバルな世界・社会で生きていくために求められる課題発見・問題解決の力を育てるためであり、その改革のベースにある理念は、従来の高校教育や大学入試（＝日本の教育）で重視されてきた知識習得型の学力観・教育観そのものを大きく変革しようとするものでもある。

だからこそ、この日本の教育の変化の節目に、「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」ともいわれる新たな学びのスタイルや探究型のプログラムが目立って注目され、いま多くの私立中高一貫校が一斉に取り組み始めていることに目を向けたい。そして私立中高一貫校のなかには、この方向性をすでにリードして、公立学校の数歩先の歩みを進めている「21世紀型教育」先進校がいくつもある。

そうした教育の新たなムーブメントも各ご家庭で意識しながら、保護者が大切にしている価値観に合った学校、そして何より「わが子が生き生き



来春2018年入試では2月1日午後を、2月2日午前に入試を、2月2日午前に英語入試を導入する聖セシリア女子中。

と楽しく学べて、将来に向けた学力も身につけ、その過程でかけがえのない自分の価値と可能性に気づき、自己肯定感も高められる私学」を探していけるとよいだろう。そのためにこそ、最新の学校情報・入試情報が必要になるのである。

## 2018年にも「私立中入試の多様化」は進み、「思考・表現・発想」力を問う入試形態が増加。

昨春2016年から今春2017年にかけての首都圏中学入試のシーズンに、新聞やTVなどのマスコミが最も注目したのが「私立中入試の多様化」の動きであった。

従来から主流であった国・算・社・理の4科目や国・算の2科目による入試に加え、今春の私立中学入試ではとくに、新たな入試科目や入試形態を導入する私立中がますます増加し、多様化の動きが拡大されたのである。

この動きは、すでに首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城）では24校となった公立中高一貫校の受験生（約1万8千名）が、少しでも私立中の併願がしやすいようにという狙いで私立中でも導入された「適性検査型入試」の増加がきっかけでもあった。

さらには、今後の小学生（＝中学受験生）が当事者となる「2020年大学入試改革」に象徴される今後の日本の教育の変化に対応し、新たな大学入試と将来の社会で求められる力を育てるための教育をめざす私立中高一貫校の教育姿勢を反映したのもであった。

つまり、その入り口の中学入試でも「思考力や表現力」を問いたいという私立中側の意図を反映

したものであり、なおかつ受験生・保護者へのメッセージとして、この2～3年で急速に、新たな入試形態が増加したと考えてよい。

その新たな入試形態・科目が、先の「適性検査型（公立中高一貫校対応型）入試」に加え、「英語（選択）入試」、「思考力入試」、「記述・論述型入試」「総合（合科）型入試」「自己アピール（プレゼンテーション型）入試」といった多様なものだった。さらには受験生の学力特性（強み）を生かして受験できる「得意科目選択型入試」や「推薦入試」も増加している。

そして今春2017年入試では、首都圏で「95校が英語（選択）入試を実施」、「120校が適性検査（思考力入試などを含む）型入試」を実施するまでに至っている。

さらに来春2018年入試に向けては、15ページのコラムでもご紹介したように、さらに30校以上（6月初旬現在調べ）が、新たな入試の導入を公表～検討している。

そして、こうした新たな入試形態で求められる力や小学生の資質は、先にご紹介した「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」、あるいは「探究型」授業、「学び合い」といった新たな学びのスタイルとフィットする側面がある。

そうしたことに気づき、中学入試段階では未完であっても、将来的には無限の可能性を持つ小学生の新たな資質や才能、自ら学び進む意志力などを持つ多様な子どもたちを迎え入れようと思意した先進的な私学が、自らの教育改革も行うこの期に合わせて、これまでとは違った、新たなコンセプトの入試形態を新設するようになった。



4科型、公立一貫対応型、リベラルアーツ入試、グローバル入試に加え、来春2018年入試では、さらに新入試『理数インター』と『英語AL (Advanced Learning)』入試を新設する宝仙学園共学部理数インター。

こうした動きは、たとえば小6になってからなど、比較的遅い時期から中学受験や私立中高一貫校への進学を志した小学生とその保護者にとっても、新たな進路の選択肢が増えたという意味で歓迎されることになった。

いずれにしても、こうした様々な動きのなかで、わが子にとっての最適な進路（学校）を選び抜くポイントとして、この「日本の教育が変わる」節目に、各私学がどのような教育をめざし、わが子が将来の社会でより良く生きていくための力を、どのように育ててくれるのかという点に着目すべきだろう。

**私学は絶えず進化し、成長する。  
 その教育の“現在”と“未来”のあり方を  
 保護者が自身の目で確かめたい！**

そして、そうした私学の教育が、各家庭の価値観や、保護者がわが子に望むことにフィットするかどうかは、やはり保護者が自分で各私学に足を運び、直接その学校の先生から話を聞き、校内の雰囲気や在校生の様子を自分の目で見て確かめるしかない。

そういう意味では、（わが子にとっての）良い学校を探し出すには、「なるべく多くの学校に足を運ぶ」ということに尽きるだろう。

しかも現在では、そうして学校見学や説明会に出かける候補校を探すための予備情報は、各私学の公式Webサイトや、受験関係のWebサイトから容易に探し出せるようになってきている。一度、じっくりと時間をかけて、いろいろな私立中高一貫校のWebサイトを見てみると、多くの私学で、かなり多様な学校生活の側面や、教育内容の深いところまでが紹介されていることがわかる。

さらに最近では、従来から行われてきた説明会に加えて、オープン・キャンパス、体験授業、クラブ体験など、受験生自身が各私学の授業やクラブに参加することで、各私学の学校生活の雰囲気を肌で感じ、それを保護者も一緒に感じ取ることのできる機会が数多く用意されるようになってきている。この2～3年の間に人気を高めている私学は、ほぼ例外なく、こうした「体験授業」の機



# 特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

会を充実させている学校だといってもよい。

しかもそれらの機会は、夏休み前の時期から各校で盛んに実施されていて、最近では、夏休み中にも多くの学校見学の機会が設けられるようになってきている。そうした機会に保護者が、あるいは親子で積極的に参加することで、多くの私学の特色や違いを感じ、その後の学校選びに生かせるようになる。

つまり、この7月以降、夏休みの期間にも、受験勉強のスケジュールを上手く調整して、親子で学校見学や体験授業など「私学に触れる機会」に出かけていただきたいのだ。

こうした機会に参加し、過去の評判や固定観念にとらわれることなく、「私学のいま（現在）」と「私学の進化（未来）」を知り、最新の「私学の入試コンセプト（＝アドミッションポリシー）」や入試問題（＝そこで求められる力）」を知ることは、学校選びの貴重なヒントや、今後の学習の指針を得ることもつながる。そして、お子さんにとっても、これから先の受験勉強の励みになる。

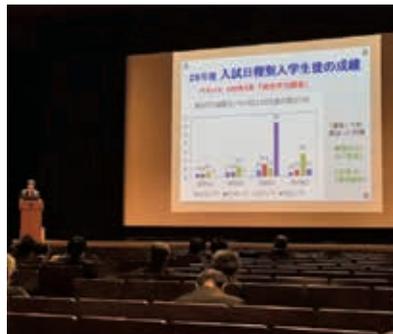
こうして、お子さんが挑む来春2018年入試に向けて、できる限り「視野を広げ」、1校でも多くの私学に足を運んで「幅の広い」学校選択を心がけていただくことで、きっとお子さんにとっての「最良の進路（＝進学先）」を探し出すことができるはずだ。

## いよいよ6年生の夏休みの時期。 ここから大きくステップアップを！

そして、もうすぐ夏休み。この期間は、約40日間もまとまった勉強時間がとれる、中学受験生にとってはとても大切な時期。受験勉強をスタートさせた時期は違っても、それぞれの子どもたちが、自分自身の学力的な成長のためにさまざまな課題を見つけて、それにじっくりと取り組んでいける貴重な時期でもある。

入試を翌年に控えた6年生にとっては、この時期の過ごし方がその後の学力的な成長に大きく影響することから、「夏休みは受験の天王山」と言われてきた。

とくに、この夏休みの時期の過ごし方が6年生に



2016年入試から「算数十合科型論述テスト」を導入して注目されてきた。さらには、来春2018年入試では「英語インテラクトタイプ」を導入して注目されてきた。

とって大事なものは、この時期が、これまでお子さんが学んできた、ひと通りの中学受験に必要な知識や考え方の、ひとまずの完成期にあるということだ。

9月以降にはそれらの力をベースに、いよいよ実戦的な問題演習に取り組み、本格的な入試学力の練成期～完成期に入っていく。この夏休みは、そのための助走期間としても大きな意味を持つ。

この7月初旬、すでにお子さんの夏休みの過ごし方の予定は固まっているだろうか。ふだんの小学校生活ではできない、学校外での体験の場や、秋の学校行事に向けての課題がある子どもたちもいることだろう。

入試のスタートを半年後に控えた6年生は、そうした受験勉強以外の課題にもチャレンジしながら、一方では中学受験に挑んでいくための学力アップに取り組み、それらを上手に両立させていく必要がある。

とはいえ、その両立のための計画づくりや、毎日の生活リズムの確立は、子どもだけでは難しい。だからこそ、そのためのサポートを、保護者の皆さんにお願いしたいのだ。

たとえば夏休みの過ごし方や目標も、意欲的で真面目なお子さんほど、いい意味で高い目標を掲げ、がんばろうと意気込みがち。

もちろん、それで上手くいけばよいのだが、途中で計画が狂ってしまったときや、事前に掲げたスケジュールや課題が十分にこなし切れないときに、つまずいてしまうタイプのお子さんも少なくない。

だからこそ、夏休み前に学習計画やその他の行動計画を立てるときには、ときどきの気分転換や楽しみになることも含めて、保護者が一緒に考え

最新入試情報

2018年入試で新設～導入される新たな入試形態〈抜粋〉

来春2018年入試でも加速的に増加する“私立中入試の多様化”最新情報

■加速する入試の多様化。すでに30校以上は新たなタイプの入試を新設～導入へ！

来春2018年入試から新設・導入される新たな入試（6/5現在・首都圏模試センター調べ）は下記のようになっている。今後さらに増える可能性があり、注目しておく必要がある。

【新設／新タイプ入試】（6/12現在35校）

- 聖学院 2/4 難関思考力入試
- 跡見学園 2/4 Iクラス思考力入試
- 跡見学園 2/4 Iクラス英語入試
- 大妻中野 2/3PM 算数（1科）入試
- 川村 2/2 2科（国・算・英より）選択入試
- 川村 2/6 2科（国・算・英より）選択入試
- 共立女子 2/3PM 英語インタラクティブトライアル+算数入試
- 麹町学園女子 2/1 みらい型（思考力）入試
- 佼成学園女子 2/2PM 第2回B自己アピール入試
- 佼成学園女子 2/11 第5回A・2科かPISA入試
- 品川女子学院 2/1PM 算数1科午後入試
- 星美学園 2/4PM 適性検査型β・第6回入試
- 瀧野川女子学園 2/2PM 第2回PM英語コミュニケーション+計算力テスト
- 東京女子学園 2/1 第1回・思考力（公立中高一貫対応型）入試
- 中村 2/1 適性検査型・特待選抜入試
- 中村 2/2 英語ポテンシャル入試第1回
- 中村 2/5 英語ポテンシャル入試第2回
- 日本大学豊山女子 2/1 適性検査型入試
- 文京学院大学女子 2/2 コース別思考力チャレンジ入試
- 武蔵野女子学院 2/2 特待チャレンジ（英か2科か4科）入試
- 和洋九段女子 2/10 本科クラス思考力入試
- 和洋九段女子 2/10 グローバルクラス思考力入試
- 聖セシリア女子 2/1PM グループワーク型 読解・表現入試
- 聖セシリア女子 2/1 英語入試
- 捜真女学校 2/6以降 E（面接形式による）試験
- 大妻嵐山 1/11PM ORみらいカプレゼン（適性検査型）入試
- 駒込 2/1 第1回国際先進コース（2科か国算英3科か4科選択）入試
- 駒込 2/1PM 第2回国際先進コース（国算英3科か4科選択）入試
- 駒込 2/1PM 第2回国際先進コース [適性（思考力・数的処理・英の3科適性か思考力・数的処理の2科適性選択）] 入試
- 駒込 2/1PM 第2回本科コース [適性（思考力・数的処理・英の3科適性か思考力・数的処理の2科適性選択）] 入試
- 駒込 2/2 第3回国際先進コース（2科か国算英3科か4科選択）入試
- 順天 2/● 第3回多面的（算+マイプレゼンテーション+国+算）入試
- 玉川学園 2/1 一般クラス英語（算英か英国）選抜・第1回入試
- 玉川学園 2/2 一般クラス英語（算英か英国）選抜・第1回入試
- 帝京 2/2 第2回AM適性検査
- 文政大学附属 2/1 みらい創造（適性検査型）入試
- 宝仙学園共学部理数インター 2/1PM 第1回 [理数インター（日本語リスニングと理数インター授業）] 入試
- 宝仙学園共学部理数インター 2/4PM 第2回 [理数インター（日本語リスニングと理数インター授業）] 入試



来春2018年入試では、2月1日A Mに第1回思考力（公立中高一貫校対応型）入試を新設し、同時に英語（リスニング・スピーキング）入試も実施する東京女子学園中。

- 宝仙学園共学部理数インター 2/1PM [英語ALL（国算英3科）] 入試
- 三田国際学園 2/4PM 第5回本科 [4科か21世紀型] 入試
- 武蔵野東 2/11 第4回（詳細未定）入試
- 安田学園 2/2 先進特待（適性検査型）入試・第3回
- 桐蔭学園男子部 2/1PM 第1回PM入試新設／国算か英算・定員50名
- 桐蔭学園女子部 2/1PM 第1回PM入試新設／国算か英算・定員理・普計20名
- 昭和学院 1/21 思考力入試
- 千葉明德 1/21 ルーブリック評価型入試
- 成田高付属 12/1 第一志望入試
- 開智未来 1/12PM [探求2（計算基礎・読解・基礎・探求（科学））] 入試
- 西武学園文理 1/17 適性検査型入試新設／定員20名
- 西武学園文理 1/17 得意教科（算か英）入試新設／定員10名

【その他、主な入試新設・変更の動き】

- 巣鴨 2/4 第3期入試新設／4科・定員40名
- 聖学院 2/2 第2回一般入試新設／2科・4科選択・定員20名
- 鎌倉学園 2/1 1次入試新設／4科・定員60名
- 桐蔭学園中等教育学校 2/1PM 第1回PM入試新設／国算か英算・定員25名
- 江戸川女子 2/2PM 一般2科入試新設／2科
- 川村 2/2 第3回（国算英より2科）入試新設
- 川村 2/6 第5回（国算英より2科）入試新設
- 東京家政学院 2/6 AM2科入試新設
- 三輪田学園 2/1PM 第1回PM入試新設／2科・定員20名
- 和洋九段女子 2/2 第3回グローバルクラス入試新設／2科か4科
- カリタス女子 2/1 一般第1回入試新設／4科・定員約30名
- 函嶺白百合学園 2/1PM 第2回入試新設／2科・定員40名
- 大妻嵐山 1/10PM 第2回一般入試新設／2科か4科・定員10名
- 大妻嵐山 1/23 第3回一般入試新設／2科か4科・定員若干名
- 駒込 2/2 第4回国際先進コース入試／2科か4科・定員5名
- 聖徳学園 2/1PM 一般入試①PM入試新設／2科・定員15名
- 聖徳学園 2/1PM 一般入試②PM入試新設／2科・定員10名
- 八雲学園 2/1 第1回入試新設／2科か4科・定員（2/1計）70名
- 千葉明德 1/24 特待生入試／2科か4科・定員10名



# 特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

## 学校説明会では、こんなことがわかる！

～何より私学の熱意と将来性を確かめよう～

これから夏休みや秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス（学校見学会）、体験授業など、受験生とその保護者が「学校を知る（見る）」ことができるさまざまな行事が行われる。各校で開催される文化祭や体育祭も、9月～11月にかけての時期がピークとなる。

わが子に合った学校を選び出すために、こういった学校見学の機会には、できるだけ数多く足を運んでいただきたい。それが「学校を選ぶ目」を確かなものにする方法のひとつだからだ。

そのなかでも、「学校説明会」は、やはり各学校の考え方や、具体的な指導内容を知るための良い機会だ。ここでは簡単にそのポイントをお伝えしておこう。

### ●私学の「説明会」で話される4つの柱

#### 1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」

～保護者の考えや期待と合うかどうか？

#### 2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」

～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？

#### 3. 「入試状況・出題傾向」

～どういう入試が行われるのか？ またそこではどういう力が問われるのか？

#### 4. 「進路指導と進路状況（進学実績）」

～将来の進路に向けての指導内容・体制は？ またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？そして3年後に迫る「2020年大学入試改革」への対応をどのように考えているかにも注目すべきだろう。

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話がある。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしよう。

そして、これらの話のなかで、いま注目したいのが、先に本文でも述べたような「2020年大学入試改革」への対応と、現在の子どもたちが社会に出る新たな時代（2028年以降）の社会を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういう力を生徒に身につけさせ、育てようとしているのかを確かめることだ。



来春2018年入試では、今春から導入した思考力型入試に加えて、2月1日AMに適性検査型入試も新設する日本大学豊山女子中。

合わせて意識しておきたいのは、その話の内容や先生方の姿勢から、その学校の“熱意”や“将来性”を感じ取ることである。この点は、世間の評価や噂話からではなく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切だ。

また、これらの説明のあとに、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースも多い。わからないことはその場で遠慮なく質問してもいいし、あるいは後日、学校や塾に問い合わせ確認してかまわない。

また、こういった学校見学の機会を通じて、次のような点もチェックしておこう。

#### 1. 受付や先生の対応は親切か？（学校の体質や先生方の熱意を確認！）

#### 2. 在校生の服装や言動は？（学校の雰囲気、生活指導、しつけを確認！）

#### 3. 施設や設備の充実度は？（華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？）

#### 4. 防災対策（耐震等）や被災時のための備えは？（いざというときの安全性を確認！）

#### 5. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？（利便性、安全性を確認！）

とくにこの数年は、先の震災時の対応なども参考にし、その後の各校の防災、安全対策がどのようになっていくかも、保護者にとって確かめたいポイントのひとつになっている。

さらには「21世紀型スキル」ともいわれる「新たな時代に求められる力」を育てていくために、各私学がどのような授業スタイルや教育プログラムを導入しているのかも注目すべき点だろう。

て、お子さんにとって実現可能な計画や、生活のスケジュールを組み立ててほしいのだ。

そうして、親子で上手く生活と学習のリズムを組み立て、個々の学習課題に取り組み、この夏休

みを終えたときに、お子さんが自分自身で「がんばったなあ」と思えたならば、その自信や手ごたえが、今後の受験勉強にも、必ずいい影響をもたらすはずだ。

## 6年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

～実現が可能な計画をつくり、自分が学習してきたことを振り返りながら前に進む～

### ●夏休みの課題や学習計画をつくるときに！

夏休みは、トータルすると40日間もまとまった勉強時間がとれる大切な時期。中学受験に成功した先輩たちの多くが、あとでその時期のことを振り返って、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はこれまでになかった！」と口にするように、この夏休みの過ごし方や努力が、受験生にとっては大きな意味を持つ。

そうしたなかで、上手な生活（＝受験勉強）のリズムをつくるコツは、なるべく「無理な計画を立てない」こと。あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。手を広げ過ぎず、実現可能な課題に順位づけをして、ひとつずつ、しっかりと取り組んでいく姿勢を大事にすることだ。

夏休みは、それまでに学習してきた知識や考える技法を使って問題演習に取り組むなど、まとまった時間を使って、そうした力を定着させるために使える貴重な時期。だからこそ、焦らず、欲張らず、実現可能な計画を立てて、毎日少し達成感を感じられるような学習リズムで過ごすことができると良いだろう。

ただ、意識しておきたいのは、単に「がんばる」とか「成績をあげる」といった意気込みだけでなく、どういう課題に、どのように取り組むのか、できるだけ具体的な目標を立てること。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなければいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直しをして、変えていってもいいものと考えておくとよい。何よりこの夏休みの親の大事な役割は、子ども自身が、やる気や日々の達成

感を少しずつでも自分で感じられるように接してあげることだろう。

一方で夏休みは、ふだんの学校生活ではできない自然体験や家族と一緒に過ごす時間が取れる大切な時期でもある。そうした体験はお子さんにとってよりフレッシュ効果も大きいので、うまく学習との切り替えとメリハリをつけられるよう親子で計画できるとよいだろう。

### ●塾での夏期講習で力を伸ばすには？

塾での6年生の夏期講習は、ある程度長い日数や時間をかけて、それまでに学習してきたことを、さまざまな演習問題に取り組むことを通して、自分で「使える力」として定着させることを狙っているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、得意なこととは何かを明らかにしておきたい。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、この夏の間、いつ、どのような分野・単元を学習するのか、あらかじめつかんでおく。そうすることで、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってくる。

次に、夏期講習の授業では、できれば前日まで、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨めるとよいだろう。そして、これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万端だ。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返って、新たな課題に取り組む気持ちの準備を整えること。自分が学習で身につけてきたことや、まだ足りないことを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではのメリットのひとつと考えておきたい。

また、夏休みの講習は、多くの場合問題演習が中心になるために、子どもたちは自分の解答が「マルか、バツか？」ということに気をとられがち。しかし、大切なのは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確かめておくこと。それが基礎・基本を確実なものにするために最も有効な学習方法だと考えておくとよいだろう。



私立の体験授業やクラブ体験することを受験生の励みになる！（写真は6月4日「東京私立男子中学校フェスタ」での聖学院中の相談体験ブース）